

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇省エネ住宅ポイント制度を利用して樹脂窓にしませんか？

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(3)

木下 清隆

■ [編集後記](#)

■ トピックス

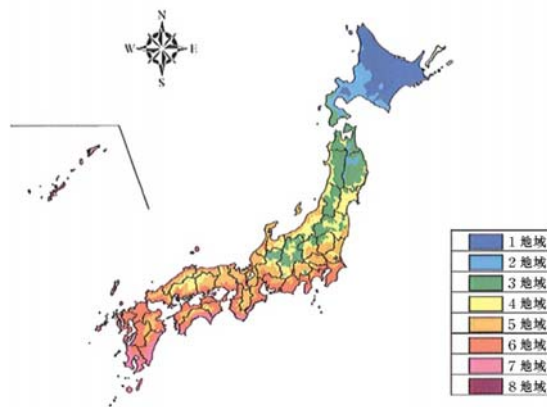
◇省エネ住宅ポイント制度を利用して樹脂窓にしませんか？

3.5兆円の平成26年度の補正予算が2月3日成立しました。その中には、建材と深い関わりを持っているわれわれ塩ビ業界に関係する「省エネ住宅に関するポイント制度（省エネ住宅ポイント制度）」が含まれています。以下に、その省エネ住宅ポイント制度について、窓の断熱改修を中心に解説したいと思います。

省エネ住宅ポイント制度は、一定の省エネ性能を有する住宅の新築やエコリフォームに対して、様々な商品等と交換できるポイントを発行する制度です。ほぼ同じ「住宅エコポイント制度」が平成21年に、および「復興支援・住宅エコポイント制度」が平成23年に行われた経緯があり、今回が3回目となります。



今回の省エネ住宅ポイントの対象となる期間は、平成26年12月27日以降平成27年11月30日までの工事請負契約で、平成28年3月31日までの間に、エコ住宅の新築に建築着工またはエコリフォームに工事着手し、平成27年2月3日以降に工事完了するものとなっていますが、予算（905億円）の執行状況に応じて締め切りとなります。対象となるのは、トップランナー基準や一次エネルギー消費量のある一定基準を満たした新築住宅や完成済住宅の購入、窓、外壁、屋根・天井、床の断熱改修、設備エコ改修等の一定の要件を満たしたリフォーム住宅です。

住宅の省エネルギー対策については、われわれ塩ビ業界でも樹脂窓を通して大いに貢献できるものとして熱心に取り組んでいます。去る1月28日から30日、東京ビッグサイトで開催されましたENEX2015でも、各サッシメーカーが集結し、最新の省エネ対応窓枠を展示したところです。さて、省エネ住宅ポイント制度の窓の断熱改修の要件は、改修後の窓が平成25年基準もしくは平成11年基準に適合したガラス交換、内窓設置、外窓交換です。日本では様々な地域の気候に合わせて省エネ基準（平成25年省エネ基準）が設けられています。それらの地域では、建具とガラスの組み合わせにもよりますが、断熱性能を表すガラス中央部




の熱貫流率（単位；1平方メートル1度につきワット）が1.51あるいは1.91以下とされる北海道地域から、熱貫流率4.00以下の関東以西などに区分されています。例えば、関東～西日本地域のエコリフォームの対象となる窓の仕様例は、下図に示すようなものです。

5、6地域（関東～西日本）のエコリフォームの対象となる窓の仕様例


建具の種類またはその組合せ	代表的なガラスの組合せ例
二重構造のガラス入り建具で、ガラス中央部の熱貫流率が4.00以下であるもの	ガラス単板入り建具の二重構造であるもの 
一重構造のガラス入り建具で、ガラス中央部の熱貫流率が4.00以下であるもの	ガラス単板2枚使用（中間ガラス層12ミリメートル以上のもの）又は複層ガラス（空気層6ミリメートルのもの）入り建具であるもの 

窓の断熱改修に対する発行ポイント数は、窓の大きさの区分及び改修方法に応じて以下のように定められています。発行ポイント数には上限があり、1戸あたり300,000ポイントです（耐震改修を行う場合は450,000ポイントが上限）。


窓の断熱改修に対する発行ポイント数		
大きさの区分	一箇所あたりのポイント数	
	内窓設置※1	外窓交換※2
	ガラス交換※3	
	ポイント数(面積)※4	ポイント数(面積)※5
大	20,000ポイント (2.8㎡以上)	8,000ポイント (1.4㎡以上)
中	14,000ポイント (1.6㎡以上2.8㎡未満)	5,000ポイント (0.8㎡以上1.4㎡未満)
小	8,000ポイント (0.2㎡以上1.6㎡未満)	3,000ポイント (0.1㎡以上0.8㎡未満)



約W1.69m×H2.03m



約W1.6m×H1.17m



約W0.63m×H1.37m

※1 内窓の交換も含みます。 ※2 増築等に伴って新設されるものを含みます。
 ※3 ガラスの交換は、交換するガラス1枚あたりにポイントを発行します。
 ※4 内窓または外窓のサッシの枠外寸法を測定します。
 ※5 ガラスの寸法を測定します。

ポイント発行申請は原則、工事完了後となっていますが、一定の書類が整えば申請が可能となっています（ただし、工事完了後に完了報告書を提出しないと取得したポイント相当分を返還させられる）。その申請期間は3月上旬から始まる（事務局の体制が整い次第）予定とのことです。一方、取得したポイントは、省エネ・環境配慮商品や地域振興に資するもの、商品券・プリペイドカードに交換できるほか、当該施工業者が追加的に実施する工事の費用に充当することもできます。詳しくは、[国土交通省のホームページ](#)をご確認ください。

更に、窓の断熱性を高める改修工事を実施すると、所得税、固定資産税の減額を受けられる省エネ特定改修工事特別控除制度や省エネ改修促進税制を合わせて利用できます。所得税の控除率や固定資産減額については、改修工事の内容などにもよりますので、詳しくは、VECのHP [（樹脂サッシ）](#) または [リフォーム支援ネット](#) をご参照ください。

是非この機会に、省エネ住宅ポイント制度を利用し、樹脂窓を設置し、快適な生活を楽しんでいただきたいと思います。

2. 伊勢神宮創建に関する学説

以上は表向きの、書紀に基づく一般に知られた伊勢神宮創建譚であり、多くの文書等に引用されているものであるが、古代史の学説としてこの創建譚がそのまま認められているわけではない。伊勢神宮の起源或いは天照大神の誕生等に関する新しい研究は、戦前の津田左右吉に始まったとされ、戦後は直木孝次郎、岡田精司氏等に引継がれているが、これらの人々の論旨については、『日本書紀』(岩波、日本古典文学大系)の補注に次のようにまとめられている。

「…、伊勢神宮の地はもとその地方の民衆の祭祀の儀礼を行なう場所であったろうということ等は、戦前つとに津田左右吉の説いたところである。戦前には津田の着想をそれ以上発展させる研究の自由が存しなかったが、戦後はじめて伊勢神宮の起源についての具体的研究が相次いで公表されるにいたった。たとえば、直木孝次郎は、伊勢神宮はもと日の神を祭る伊勢の地方神で、皇室の東国発展に伴い、雄略朝ごろから皇室と関係を有するにいたったが、それが皇室の神となったのは、壬申の乱に天武天皇がその援助を受けて勝利したのちである、とし、岡田精司もまた、^{わたらい}度会はもと太陽信仰の聖地で、度会氏が太陽神を祭っていたが、天皇勢力の東方経略が積極的に進められた雄略朝に、ここに天皇の神が祭られることとなり、従来の^{わたらい}度会氏の神はその御饌都神と変じ、外宮のトヨウケヒメとなった、とする。外宮の起源については記・紀に所見なく、止由気宮儀式帳に丹波国比治から止由気大神を度会に移したとあるにすぎぬ。伊勢神宮が皇室の神となったために、本来の地方神が外宮の祭神に転じたと考えるのは、その点合理的な推論といえよう。… はじめは伊勢の地方神であった伊勢神宮が、紀の所伝よりも遥かに新しい時期になってから皇室の神に転化した、と考える点では共通しており、その点に関する限り今日学会の通説として認められているとあってよい。記・紀神代巻の天照大神が太陽神であるとともに皇祖神であるという二重の性格は、このような伊勢神宮の祭神の転化と考え合わせるとき、いっそうよく理解せられよう」(6—10)



伊勢神宮外宮（第一鳥居参道）

となっている。この補注の内容を整理すると次のようにまとめられよう。

- ① 直木孝次郎氏の説は、伊勢神宮は元来伊勢の地方神である日の神を祭っていたが、皇室の東国発展に伴い、雄略朝ごろから皇室と関係を有するに至った。日の神が皇室の神となったのは、壬申の乱に天武天皇がその加護を受けて勝利したのちである、とするもので「地方神昇格説」とでもいうべき説である。
- ② 岡田精司氏の説は、度会はもと太陽信仰の聖地で、度会氏が太陽神を祭っていたが、天皇勢力の東方経略が積極的に進められた雄略朝に、ここに天皇の神が祭られることとなり、従来の^{わたらい}度会氏の神はその御饌^{みけつ}都神と変じ、外宮のトヨウケヒメとなったとするもので「皇祖神遷座説」とでもいうべき説である。

以上のように伊勢神宮の創建と天照大神誕生に関する、現在の主流となっている考え方を紹介したが、この中の岡田精司氏の説については、もう少し詳細な内容を紹介することにする。今後の話の展開上必要な、多くの重要な内容が含まれているからである。

【岡田精司氏の説】

伊勢神宮、天照大神に関する岡田氏の所説は、「伊勢神宮の起源」と「古代王権と太陽神」（何れも『古代王権の祭祀と神話』塙書房に収録）にまとめられているが、その内容を併せて整理すると次のようになる。なお、()内は筆者注。



伊勢神宮外宮（豊受大神宮）

- ① 伊勢神宮には内宮＝皇太神宮と、外宮＝豊受神宮があり、『日本書紀』と『皇太神宮儀式帳』に垂仁二十五年のヤマトヒメによる内宮鎮座が見える。外宮の方は雄略天皇が夢のお告げで、丹波の国から豊受神を天照大神の御饌都神として迎えた、という話が『止由気宮儀式帳』に載っている。
- ② このように、外宮は後から祭神が迎えられて出来たとすると、次のような不可解なことがあり、その説明が付かない。(1)伊勢神宮の祭典・奉幣は必ず外宮を先にする「外宮先祭」の習慣があること。(2)地理的に外宮は先に開けた山田(伊勢市の中心)にあるのに、内宮は谷間の奥まった宇治にあること。(3)外宮正殿のすぐ南にある高倉山山頂には古墳があり、普通では許されない墳墓が後から神域内に出来たことになること。(4)外宮の祀官は古来国造・郡司の家柄である度会氏であり、高倉山を中心に度会一族の氏神祭・山宮祭の祭場が分布しているのに対し、内宮とその祀官の荒木田氏との間には、このような密接な関係が全く認められないこと。
- ③ 伊勢には伊勢国造と神国造があり、^{わたらい}度会氏は飯野・多気・度会の神三郡の国造であった。神宮創建以前の度会氏は度会県の^{あがたぬし}県主的豪族、「^{あがたのみやっこ}県造」であったと思われる。この県造から国造への発展は古墳築造の跡からも裏付けられる。古墳の築造状況から見て、伊勢国は北部・中部地方が政治的には先に発展し、度会地方は立ち遅れていたといえる。しかし、後期古墳時代になると状況は一変し、全国でも十数例しか報告されていない帯金具が古墳から出土したり、巨大な石室を持つ円墳が高倉山山頂に造られたりしている。これらは度会氏が伊勢に神宮が移されて以降、神宮をバックに発展したことを示すものと思われる。
- ④ このように見てくると、豊受宮は、後になって他所から移してきたような性質のものではなく、古来度会の国魂が籠ると信じられ、度会一族にとっては祖先神の聖地である高倉山を中心として、国造一族が^{いつきまつ}齋祀って来たものと考えられる。
- ⑤ 神宮の禰宜職は、内宮は荒木田氏、外宮は度会氏がそれぞれ世襲していたが、七世紀以前の職掌がどのようになっていたのかについては、両氏の間で大論争となっていた。両者の所伝については新興勢力の荒木田氏のものより、古い歴史を有する度会氏のものの方がより合理的と考えられる。それによれば、神宮は内宮鎮座と同時に内宮・外宮の二宮大神主が度会氏から一名任命され、その地位はその後度会氏の中で相続されて行ったが、天武元年になって内宮と外宮にそれぞれ禰宜が置かれるようになった。初

代の禰宜は双方とも度会氏から出たが、持統朝になって内宮は荒木田氏、外宮は度会氏に別けられた、となっている。なお、度会氏における初代大神主は^{おおわくごのみこと}大若子命（別名、^{おおはたぬし}大幡主命）と伝えられている。

- ⑥ 外宮の本来の祭神は、度会氏の祖神または守護霊と推定される「^{あめのひわけのみこと}天日別命」と考えられる。外宮の摂・末社には天日別命の妃や子供、あるいはその子孫で初代禰宜となった大若子命等の神社はあるが、天日別命を祀った神社が一つも無いことが、その裏づけといえる。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

消しゴムで何かを作ると云うと、ハンコが一番に思いつきますが、最近、[消した時に出了たカスを使ったアート](#)を知りました。消しゴムで消した対象を、その消しカスで立体に作るだけでなく、その色も写しとって使っています。例えば、掛軸の観音を消しゴムで消して、その時にでたカスで絵の観音を立体のフィギュアとするものです。写真でしか見ていませんが展示会があればぜひ実物を見てみたいと思います。(風蘭)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp